

会議録【要点筆記】

会議名称	第 6 回米沢市環境審議会		
開催日時	令和 7 年 11 月 14 日 (金) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分		
開催場所	米沢市役所 3 階 301・302 会議室		
出席者	会長 吉田 司 国立大学法人山形大学工学部 教授 副会長 白壁 洋子 森の仲間たち代表／山形県環境アドバイザー 委員 中川 恵 山形県公立大学法人山形県立米沢女子短期大学准教授 〃 高野 浩宣 米沢商工会議所 総務企画部マネージャー 〃 福島 正道 環境省環境カウンセラー 〃 塩越 憲夫 環境省環境カウンセラー 〃 佐藤 亜紀 公募委員 〃 吉原 ゆみ子 公募委員		
欠席者	委員 佐藤 郁子 生活クラブやまがた生活協同組合 理事長 〃 齊藤 麗子 米沢市衛生組合連合会 副会長 〃 我妻 弘一 東南置賜建設業協会 副会長 〃 深瀬 順子 米沢市消費生活研究会 副会長 〃 横山 球代 米沢商工会議所女性会 会長		
事務局出席者	遠藤市民環境部長 富取課長、松浦補佐、伊藤環境主査、佐藤主任、越廻主任、佐々木主事（環境担当）、神村廃棄物担当主査		
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 次期米沢市環境基本計画について ① 審議事項及び配布資料の説明 ② 審議 (2) 脱炭素先行地域づくり事業について（報告） (3) 今後の審議会スケジュールについて 4 その他 5 閉会		
会議資料	次第 第 6 回環境審議会資料 【本冊】第 4 期環境基本計画(案) 【別冊】参考資料(案) 資料 1_現状分析と課題整理 【手引き】米沢市脱炭素先行地域づくり		

	様式・算定シート
	会議内容
【1～2】省略	
【3 議事】	
(1) 米沢市地球温暖化対策実行計画について	
事務局	(資料に基づき、説明)
議事進行	委員より、質問や意見があれば伺いたい。
会長	ペレットストーブ・薪ストーブについて、どれだけ推進していくものなのか。
	ペレットストーブ・薪ストーブは、他の再生可能エネルギーと比べると、熱効率が低く、二酸化炭素排出量が多い。もし生の木を使ってしまうと、水分が多く含まれ、低温燃焼が起きやすく、有害ガスを発生しやすいものである。
	最近の薪ストーブ・ペレットストーブは二次燃焼や触媒式のものはあるが、単純に燃やすだけのものを使ってしまうと環境的には他の再エネよりもクリーンではない。そのことを市民に周知させていかないと誤解している人が多いと思っている。
	省エネルギーの進行は人口減もあるのではないか。実質的に省エネや再エネの拡大が省エネの要因になっているかを調べる必要があるのではないか。
	アンケート結果からは、他地域に誇れる自然があり、満足度も高いという結果が見えている。しかし、ブナの豊作も以前は5～7年周期であったが、現在は1～2年周期で豊作がやってくるようになっている。これは気候変動と切り離せない。環境保護も大事だが、待ったなしの現在の状況では20～30年かかる原子力発電ではなく、再エネが必要不可欠である。しかし、全国で再エネの反対運動が盛んである。そこで、米沢市に期待するのは、環境保護と再エネ導入を両立できるようなモデルを作ることだと思う。
	環境教育の部分に関しては、ソフトウェアの部分がまだ可能性があると思う。
議事進行	他にご意見等はありますか。
委員	まず、全体的に情報発信が欠けているのではないかと感じた。市民が知らないことが多いのではないかと感じた。
	アンケート結果の生物多様性において、自然観察会の開催よりも外来生物の駆除が求められているとある。そのとおりだと思うが、生物多様性の保全は特定の生物の保護・駆除ではなくたくさんの生物の保全という意味である。環境学習については、森林に特化している環境学習の機会が必要だと思う。森林について知ってもらって、その先に外来生物の駆除等の行動になると思

	うので、基本計画に強く入れ込んだ方が良いと思う。
議事進行	他のご意見はありませんか。
委員	情報発信に追加して、情報発信について 2 種類考えたほうが良いと思う。 1 つ目はわかりやすくメッセージや市の方針を伝えることが重要である。これは新しく出てくる言葉や概念を伝えることは大事であるためである。
	また、環境の事柄について、住民や地区ごとに熱意の温度差がある。これまで丁寧に説明や対応をしてきていると思うが、市として、上がってきた意見を把握していると意思表示できるような情報発信も大事なのではないかと思う。
委員	24 ページの計画の進行管理において、PDCA サイクルと書いてあるが、だれがどう確認するかが明記されていない。毎年度どのように見直しするかを書いておらず、わからなくなっている。
事務局	委員の意見につきましては誰が何をという部分を付け加えたいと思う。会長の難しい宿題に関して、バイオマスや薪ストーブに関しては国の施策に準じるということもあるので、地方環境事務所と話し合っていきたい。 省エネに関して、人口減少ということはごもっともということもあるので、踏まえたうえで検討していきたい。環境保護と再エネの両立というところはゾーニングマップが含まれる地球温暖化対策実行計画で示せてていればと思う。
	環境学習、情報発信については難しさがあるものの、更なる発信や今回いたい意見を反映していければと思う。
会長	生物多様性の保全に関しては森林農村整備課が緑環境税を使った活動を行っているが情報発信ができていない部分があったと思うので、更なる促進と環境基本計画に入れ込んでいきたい。
会長	ペレットストーブについて、高温の焼却炉ではないので、単純に燃やすだけのものだと排気がクリーンではないことを留意しなくてはならない。危惧するところとしては、全国的に嫌われ者になってきている再生可能エネルギーの導入である。再生可能エネルギーと環境保護の両立は何より大切なものになってくると思う。
委員	木質バイオマス発電が注目された理由は石油からの脱却という認識である。エネルギーに良いも悪いもないのではないか。真室川町や金山町では木質バイオマスが導入されていて、地産地消できるという特質も見られたら良いと思う。
会長	石油は純化しているので、効率は高いが、木は純化していないので、効率が悪いのは事実である。製材所で残った木が腐る前に使い、ごみの処理としては使わないよりましであるが、太陽光や風力を導入したほうがクリーンで

	あり、効率が高いということが学術的には証明されている。
事務局	市としては資源循環という面で取り組んでいきたいというところがある。 いただいたご意見を参考にしながらバランスをとっていきたいと思う。
(2) 脱炭素先行地域について	
事務局	(資料に基づき説明)
会長	木質バイオマスとバイオガス両方あるが、バイオガスについての今後どうするのか。
事務局	飯豊のながめやまバイオガスを経営している東北おひさま発電が米沢で合同会社にして行う予定である。これは、米沢の資本を入れ、米沢に還元できるようにしたいという事業者の思いがある。今はその仕組みづくりを行っている。交付金は使わないので、東北おひさま発電が動いている。建設場所は赤崩地区となっている。
会長	ふん尿は米沢牛を使う予定か。大規模に行えば行うほど効率は良くなっていく。お金の部分は心配であり、5年後に補助金がなくなる際、事業が継続するかが心配になる。
事務局	糞尿は米沢牛の牛ふんを使う。規模としては 500 kW、牛 1000 頭の規模である。市内の半分の牛ふんを集められる。また、環境省からは横展開も求められているので、周りの地域に普及できるように取り組んでいきたい。
委員	住民説明会での参加者人数や様子を教えてほしい。
事務局	上郷地区は 47 名、窪田地区は 24 名、山上地区は 25 名参加いただいた。
委員	地域ごとに反応の違いを知りたいところではあるが、この説明会を通じて関心を持って行動変容になればと思う。どんな変化が出てくるかが期待するところである。
【4 その他】	
事務局	(事務局より、次回開催日程について報告)
【5 閉会】	